



もうひとつの公共 ～市民社会の力が問われている～

ボランティア活動を通じて生きがいのある日々を送り、社会に貢献したいという人々が増えています。いま、責任ある市民として、われわれに何が期待されているのか、内外のボランティア活動の研究やプログラム開発に携わってこられた講師をお招きして学びました。

午前中の講義では、講師が設立時から関わった「世田谷ボランティア協会」の具体的な取組をお聞きして、コミュニティの課題解決型「公民館」をつくることの意義や、ボランティアの市民力を結集して社会の課題解決力につなげていくボランティア・コーディネーションの重要性を学びました。午後の演習は5グループに分かれてワークショップを行い、参加者から出された地域課題を整理、焦点化し、その課題解決のための方策を検討しました。人と人、人と地域をつなぐ「縁結人」としてのコーディネーターの役割の重要性を再認識する機会となり、明日からの活動において勇気を与えていただきました。（受講者数 102人）

〈研修内容〉

【講義】

演題 「市民社会の力が問われている」 ～参画型市民社会の創造とボランティア・コーディネーション～

講師 昭和女子大学グローバルビジネス学部
特任教授 興梠 寛 氏

【演習】

テーマ 「“市民力”を育むシチズンシップ・プログラムをデザインする」

講師 昭和女子大学グローバルビジネス学部
特任教授 興梠 寛 氏



受講者アンケートから

- 「ボランティア」の定義があらためて分かった。また、ボランティアが何をすべきかも理解できた。
- ボランティアが自己の成長、幸福な社会につながるという話はとても面白かった。目からウロコのことばかりだった。持続可能な事業にしていく（補助金に頼らない）など、とても勉強になった。
- 講師が実践されてきた姿が伝わり、分かりやすい内容だった。ぜひ、地域にもどって実践してみたいと思った。
- 仕事でも地域でも大いに（今回の研修講座の成果を）活用させていただきます。まずは、ボランティアのつなぎ役をやっている自分自身を広く伝えていきます。
- 「縁（えにし）を結ぶ人」をなんとか見つけたい、育てたい。